

「時」

こんにちは。サーマルタンクの新洋技研工業です。早いもので今年もすでに半年過ぎてしまいました。どうも時の経つのが年々早くなつていくように感じて仕方がないのですが、そう話すときと大概「年を取った証拠だねー」と言われてしまいます。(苦笑) 確かに子どもの頃は今より1年が長く感じていたように思います。また、好きなことをしているとおつという間に時は過ぎ、逆に嫌なことをしなければならぬ時は妙に長く感じたりするという経験はどなたでもあるのではないのでしょうか？

しかし当たり前のことながら、今も昔も時計の針の進み方が早くなったり遅くなったりするわけではなく「心理的時間経過」の表現としての時の経つのが早い、遅い、長い、短いという言葉を使うわけですね。このような経験は「ジャネーの法則」や「経験による処理的速度の向上」で解説されているようですが、人間の時間感覚というのは、年齢やその時々々の感情などによって大きく左右されるもの、ということがわかります。

しかし考えてみたら「時」という言葉はよく使うものの、意味や語源を考えたことがなかったなーと思い、調べてみたところ、「常にとどまることがない」というところから「とこ」が転じて「とき」となったという説と、速くすぎていくことから「疾き(とき)」としたという説があり、「時」という文字については足の象形と出發を表す横一線、それと太陽の象形の形声文字で、「進みゆく日」から「時」という漢字が成り立ったとありました。

この他にも寸(て・手)と疋(あし・足)の会意兼形声文字で、手足を動かして仕事をし、これに日が加わり日が行進していくことから「時」という文字になった、という解説もありました。ということは「時」は「常にとどまることのない状態・うつろい、日の進み」を表し「時間」というのは「移ろいゆく日のはざま」、「時刻」は「移ろいゆく日のはざまを刻む」ということになるのでしょうか。

しかし「その時・この時・あの時」とか「時には」「まさに時を得て」「時が満ちる」という場合の「時」の意味は、限られた期間、瞬間、完結された場面のことを表す言葉として使われ、長いスパンの流れのことでは無いようです。このように日本の言葉というのは、同じ文字でも多様な使い方をされるのだなあと改めて感心させられました。今この時に出来る最善の手を尽くし、時流に乗って時代を生き抜いていかなきゃ！！



日本の野鳥シリーズ

アオジごめん

技術営業部 佐藤 弘

アオジは山の小鳥だから越後平野の平場にはいないと、昔は言われていたらしい。それが、繁殖期に青虫をくわえた雄が阿賀野川河川敷のヤブに入る姿を観察し、そこに巣があると確信してから30年過ぎたのだろうか。その後私達の調査地である海岸保安林でも繁殖を始めて、17年ほどになる。今では毎年のようにこの保安林に戻って、繁殖を繰り返す雄がずい分いる。しかし雌の常連がいないのは、血が濃くなることを避けて分散するためらしい。08年秋に10羽のトキが試験放鳥されたあと、すべての雌が佐渡を離れ本州にしばらく居ついたのも同じ理由だという。

出自は知らないがウグイス・コマドリ・オオルリを日本三鳴鳥と呼ぶ。美声のウグイスと品格あるさえずりのコマドリに異論はないが、単調なピーピーとジジッだけのオオルリがなぜ？と思う。これを仲間内の話題にしたら、皆さん一言を持つからきつと賑やかになると思う。「ミソサザイの熱唱がいい」「高原の夜明けはアカハラでなくちゃ」「キアシシギの哀調を帯びたピーウイのひと声がたまらない」「鈴を振るようなアオジはなかなかやる」そんな話を酒のあてに夜も更けることだろう。

ヤブのヌシのようなウグイスになぜかそんな例は見ないが、本種は葉裏に潜むマダニにとりつかれるらしく、マッチ棒の頭より少し大きいマダニが首に食いついている個体を捕えたことがある。ダニをピンセットでつまみ取ろうとしたが滑るばかり。業を煮やしてヤツをブライヤーに挟んで潰した。結果、ダニの牙が鳥の血管を傷つけてその個体を失血死させた。万に近い数の鳥を手にして、骨折や脱臼などのケガをさせたことはない私が唯一落した鳥だ。よかれと思ったことが私の無知からひいきの引き倒しになってしまい、時に思い出しては古傷がうずく。

マダニに食いつかれたら最期、満腹するだけ血を吸って噛みついた牙を自ら離すまで待つしかないという。強引に引っぱると牙が残るとか。人間サマの場合は、手を出さず皮膚科のお医者に行った方がよいらしい。さらに、何やらウィルスを持っていて手当が遅れると死に至ることもあるというから恐ろしい。

こんなロクでもない寄生虫には「生態系におけるお前の立ち位置について、何か弁明することがあるなら言ってみろ」と言いたい。マダニにたかられた鳥は、そのまま放鳥するほかないことがなんと侮しい。

“ちょっと一息” “クレーム”

No.13

技術営業部 副部長 山本知男

暑く忙しい日々が続いてる今日この頃、このDMを読んで頂いている皆さんはお元気で過ごしてでしょうか？ 我社は今年は特に忙しいです。このDM文章も「今月はゴメンね、無理！」って言ったけど、どうしても書けと言うことで、今やり始めましたが・・・、何も文が浮かばない、困った。と言うか、これを考えてる時間あれば、抱えてる仕事をやった方が良いのでは・・・と思ったり、でも結局これもやって、仕事もやって、全て上手くやりなさいって事なんですよね。時間の使い方がヘタとか、何でも自分で抱え込まないようにとか言われるんですが、じゃこのDMも誰かやって、って言いたいですね。

さてクダ巻いてもしょうがないんで、最近趣味でイラッと来た事を書きます。

この忙しい中、私が所属しているバンドが、地元に出た文化会館のホールで始めて演奏会を行いました。長年の夢であったホールでの演奏で非常に気分良く出来て、観客の皆さんからも好評を得て満足していたところ、そのホールからクレームが来ました。開場内の案内の為にホール側から小さいボードスタンドを借りて、そこに書き込みして出したんですが、ボードと書いていた物が紙を貼るもので、書き込みが消えないので弁償して欲しいとの事。貸してくれる時はそんな事言ってないし、ボード用マーカーで書いたけど、消えないと言うし、しょうがない弁償しますと言ったんですが、請求が14,000円との事。ビックリ！！ボードだけの取替えではなく、一式全て取替えの請求が来たのです。それで文句言いに行きました。とりあえず本当に消えないかどうか、いろいろ試してみたらキレイに消えた。(やる気ないだけじゃん)って心では思ったけど、「これでもダメですか？」とやんわり言ったら、しょうがないから良いみたいな感じで主査のオバさんから言われた。この件の前にも館内に人が溢れているのに時間まで入場させないとか、小さな揉め事がいろいろあったので館長を呼んでもらい、文句を言いました。区民の為に建てて区民が利用する所が、なんでこんな拘り定規なやり方で縛られるのか云々、館長さんも「いろいろと他からも苦情を頂いてるので、今度サービス向上委員会を作って改善しますので、今後ご利用下さい」との事。利用する方はいろんな団体がいろんな事を行いたい、運営する方は規則に則り一律に円滑に計りたい。でも利用者が不便とか不快に感じたら次からは利用しなくなる。利用が減れば会館は閉鎖になるんだから、そこはサービス優先だろうになと思うけど、あの主査のオバさんは、そうは思わないんでしょうね。当社もいろんな問題が出ますが、お客様優先での対応を心掛けていますので、今後もよろしくお付き合いの程をお願いします。

◆ ちょっと豆知識 ◆ その20

「スマホを使った比色分析の検討」

技術営業部 部長 成田 護(mamoru@shinyo.co.jp)

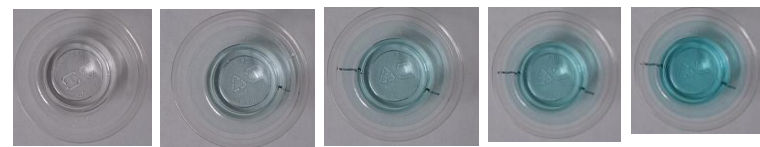
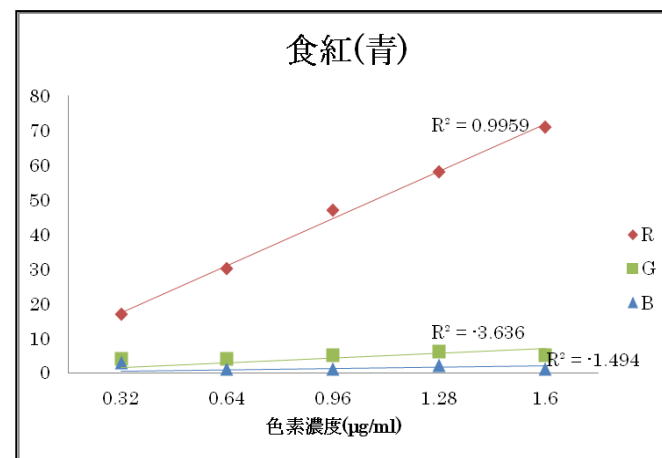
昔に比べ、酒蔵の現場における「分析」という作業の重要性が増してきているように思います。酒蔵で、「麹の酵素力価や尿素を定量したい」という話になった時、一番ネックになるのは分光光度計の購入ではないでしょうか。

今回、スマホのアプリが分光光度計の代わりになり得るとの話を聞いたので、当社にこの春入社した理科系修士課程修了の新人に、実際に使えそうかどうかを検証してもらいました。

利用したアプリはKN Inc.社の「What RGB?」。画像の任意の部分の、光の三原色(赤:R 緑:G 青:B)の強度をそれぞれ数値に変換してくれるものです。

食紅の青(この言い方も分かりにくいですが・・・)を適宜希釈した標準系列を調製。それぞれの濃度の食紅を撮影してRGBの値を読み取ってプロットし、グラフにしたのが右の図です。また、それぞれの濃度に対応する写真をその下に載せました。

画像からアプリが取得するRGB値も、基本的にはランバートベールの法則に従うはずなので、スマホと被写体の距離や、サンプルの採取量、入れる容器を同じにする等の工夫は必要になりますが、比色分析経験者なら、右のグラフを見ると「実用化出来そう」とは思わないでしょうか・・・。ちなみに今回ご紹介したのは「青」ですが、赤、黄、緑でも同様の結果が得られていますので、今後の進展に乞うご期待。



Let it go を44言語で聴いてみた

エッセイ

生産部 島貫 修一

世界中で大ヒットした映画「アナと雪の女王」。44言語で歌われたLet it goをユーチューブで聴いてみた。さすがに44言語もあると、歌どころか言葉としても初めて聞くものだらけ。把瑠都の母国語(エストニア語)、琴歐洲の母国語(ブルガリア語)、大砂嵐の母国語(アラビア語)、などと相撲を思い浮かべてしまう。更に2時間39分もかけて全曲聴くならば、最も聴き心地の良い言語はどれかと考えながら聴いてみた。評価基準は「自分の好み」だけで、えこひいきも何でも有り。

2時間39分後、独断と偏見で選んだ1位はスペイン語、2位はイタリア語になった。どちらも母音をはっきり発音し、巻き舌があるのは共通しているが、スペイン語のほうがより鮮やかで華やかさがある。フリオ・イグレスィアスの「ナタリー」を聞いても、スペイン語の響きがとても音楽的に感じてしまう。そして3位はフランス語。「ス」と「イ」ほどではないが英語よりは明瞭に発音するし、所々に入る鼻母音が歌詞の雰囲気合っている。

結果として南欧の三か国語を選んでしまったが、正直言ってゲルマン系の言語は聴き心地が良く感じられない。どことは言えないが(日本と同じ捕鯨国)、Lisa Stokkeが元気に歌っていた言語は、発音が苦しげに聞こえて違和感を覚えてしまう。ノルウェーのみなさんごめんなさい。悪意はありません。スモークサーモンは大好きです・・・？。